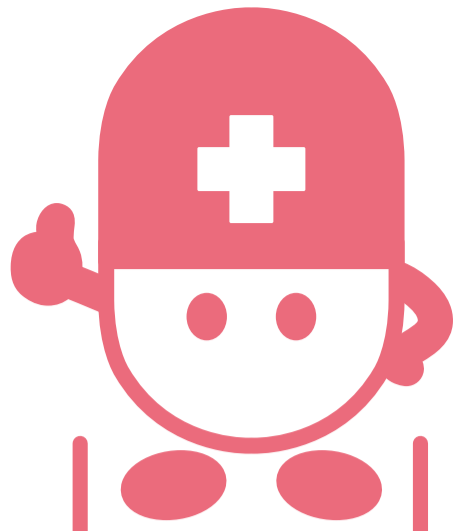


地域の健康 薬局がサポート



健康かわら版

Vol.2

県内でも体制づくり進む

厚生労働省は2015年10月、「患者のため
の薬局ビジョン」をまとめ、これから
の薬局のあり方として「かかりつけ薬剤

師・薬局」と「健康サポート薬局」の両
機能を強化する方針を打ち出しました。

「かかりつけ薬剤師・薬局」は患者が服
用する全ての薬を把握し、24時間体制で
電話相談に応じます。処方した医師らと
積極的に連携し、残薬管理や服薬指導な
ども行います。

「健康サポート薬局」は「かかりつけ」
の機能に、地域住民の健康を支援する役
割が加わります。専門知識を習得した薬
剤師の常駐、プライベートに配慮した相
談窓口の設置、医療機関や地域包括支援
センターなどの連携などの要件を満た
し、地域のニーズに合わせた対応に努め
ます。県内では3月13日現在、4店舗あ
ります。

厚生労働省のビジョンを地域で推進するた
め、県は16年度から「健康サポートプラ
ットフォーム構築事業」をスタート。本年
度は県内の4薬剤師会が事業を行い、地
域の住民、コミュニティ、学校、医師
会などと連携を深めるとともに、体制づ
くりの課題などを探りました。



丸亀町レッツホールでの「たかまつ健康と薬の祭典2018with薬剤師」。薬や歯、健康など各種相談ブースに多くの人が訪れました

かかりつけ薬剤師

全ての薬をチェック

処方された薬を飲み忘れてしまう人が少なくありません。症状が改善したり、薬が合わないと感じたりして自分の判断で薬を残す人もいます。このような「残薬」は医療費の無駄遣いにつながるだけでなく、症状を悪化させる恐れもあります。どこの薬局でも相談に乗ってくれますが、飲み忘れの残薬を大量に抱えている人、飲み合わせなどが不安な人は「かかりつけ薬剤師」を持つことをお勧めします。

「かかりつけ薬剤師」は、患者に処方される全ての薬だけでなく、市販薬、健康食品、サプリメントまで一元的に相談に応じます。必要な場合は医師に処方を確認・相談したり、専門病院への受診を勧めたりします。夜間や休日でも電話相談に応じ、必要に応じて調剤を行うこともあります。介護関連商品の相談のほか、介護サービスについて施設の職員らとやり取りすることもあります。

サポートは担当の薬剤師を選び、制度を理解して同意すれば始まります。料金は3割負担者の場合で1回70円～100円程度の負担となります。

健康サポート薬局

親身になって住民見守る

丸亀市のサン調剤薬局は昨年12月、中讃地区で初めて「健康サポート薬局」になりました。理想に掲げるのは昭和の「まちかど薬局」。中村清美社長は「昔の薬局は擦り傷程度なら赤チンを塗ってくれ、病気がやけどひどければ、親身になって専門のお医者さんを紹介してくれた」と幼い頃の地域に根差した薬局を目指しています。

設立は1996年4月。医薬分業の流れの中、同市と多度津町の薬剤師42人が出資し、丸亀市薬剤師会が運営を続けています。当初から患者だけでなく、地域住民の健康づくりを後押し。「丸亀お城まつり」や多度津町の「健康フェスタ」などのイベントで

血圧や骨密度測定などを行ってきました。市歯科医師会と連携し、歯周病のチェックから糖尿病の発見や早期治療に

つなげています。約2年前からは市内の歯科、内科、外科、小児科医から医療関係者と2カ月に1回程度の研修会を実施。医療知識の共有や人間関係の構築などに努めています。

店舗では地域の人たちを対象に、病院での検査数値や生活習慣病の検査データを見な



老化の原因物質を測定する来客者

● 県内の健康サポート薬局

薬局名	住所	電話番号
栗林公園前薬局	高松市栗林町1丁目6番1号	087(832)0062
あんず調剤薬局	高松市太田下町1872-5	087(815)1606
サン調剤薬局	丸亀市城東町2丁目14番33号	0877(24)7135
松村薬局	東かがわ市松原969-13	0879(23)1381

機器は来客者に無料で開放。同市内の会社員(44)は比較的いい数値にほっとしながらも「メタボから来る病気が心配。薬のことや食生活などの相談に乗ってほしい」と話しました。

中村社長は「処方薬をきちんと理解して服用してもらえているか、病に気付いていない人に病院へ行ってもらうかなど薬局の役割は多い。矛盾するかもしれないが、最終的にはみんなが薬を飲まなくていい健康な体になってほしい」と願っています。

お薬手帳

副作用のリスク回避



電子版お薬手帳



さまざまなお薬手帳

便利な 電子版もお勧め

薬は病気をやけどの治療に欠かせないものですが、どんな薬でも副作用を起こすリスクを抱えています。薬と薬、薬

と飲み物や食べ物の組み合わせで効果が差があったり、副作用が強くなる場合があります。この問題を避ける

ため、役に立つのが、お薬手帳です。医師や薬剤師が薬を処方・調剤する場合、患者が過去に副作用やアレルギーを起こしたことがないか、今の薬をどのくらいの期間飲んでい

るか、他の病院で処方された薬との組み合わせは大丈夫なのか、などを確認します。お薬手帳を携帯していれば、違病、不慮の事故や災害に遭った場合などでも役に立ちます。

お薬手帳は薬局でもらう薬のデータを「貼つたら終わり」ではありません。服用しているサプリメントや市販薬、院内処方薬の履歴をはじめ、それによる体調の変化などを自分で書き込むことが大切です。

料金面でもメリットがあります。ファミリーマンから3割負担者は手帳を持って半年以内に同じ薬局を利用すれば、支払い料金が初回より原則40円(後期高齢者ら1割負担の患者は10円)安くなります。ただ、手帳を忘れたら安くはなりません。

お薦めしたいのはスマートフォンでデータを管理できる電子版お薬手帳の併用です。スマホは普段から持ち歩いているので受診時に忘れにくいはず。また、自分以外の家族のデータなども長期にわたって登録でき、分からない薬の情報もすぐにインターネットで調べられます。

電子版お薬手帳のアプリはたくさんあり、スマホから無料でダウンロードができます。

健康サポートプラットフォーム構築事業

薬剤師・薬局はこれまで来客対応が主な業務でした。地域の課題やニーズを把握する機会がほとんどなく、地域住民や医療、介護の関係者が協働して健康に取り組む場やノウハウもあまりなかったのが現状です。厚労省が策定した「患者のための薬局ビジョン」に沿って地域でサポート体制を構築するには、住民や関係者の理解、連携が欠かせません。このため、県が取り組んでいるのが「健康サポートプラットフォーム構築事業」です。昨年度は坂出市王越町がモデル地区に選定され、本年度は同町に加えて高松市、丸亀市、さぬき市、東かがわ市の計6カ所で各地域の薬剤師会が事業を行いました。新たに始めた3薬剤師会の取り組みのうち、健康イベントについて紹介します。

本年度は6カ所で開催

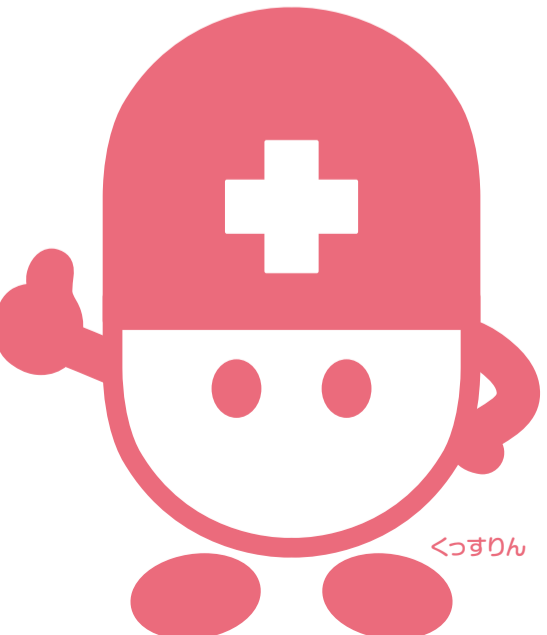
高松市薬剤師会は1月7日に丸亀町吉番街ドーム広場などで「たかまつ健康と薬の祭典2018 With 薬剤師」と題したイベント、昨年11月に太田地区で「健康相談・講演会」をそれぞれ開きました。場所は同じ市街地でも、市外の人を含む幅広い年齢層が集う中心商店街と、太田地区限定の住宅地という特徴の異なる地域で今後のサポート体制を考えました。

丸亀町では特設ステージを設置。地元ダンスチームのパフォーマンスやバルーンショーなどが会場を盛り上げ、住民や通行人ら約500人がさまざまなプログラムを体験しました。イベントにはたくさんの方々が関わり、参加者は市医師会による健康診断をテーマにした講演会、県理学療法士会による健康体操、地元商店街振興組合の「ポディバンク」での健康チェックなどを通して、処方薬や自分の健康などについて理解を深めました。課題調査の回答者には、カブなどが入った特製の野菜スープが振る舞われました。

一方、太田地区はコミュニティセンターなどにお年寄りを中心に2日間で計100人以上が参加。講演会やお茶を飲みながらの健康相談会などを行いました。講演会では地元の薬剤師が薬の効果や飲み方などを説明。アンケートでは同地区で高齢世帯が増えており、サポートの必要性が高まっていることなど、地域の課題が見えてきました。



城坤小学校での「ふれあい城坤秋まつり」の「子ども薬局」。白衣に身を包んだ児童が、お菓子を錠剤に見立て、本物の自動分包機で小さく袋詰めする作業を体験しました



丸亀町吉番街ドーム広場での「たかまつ健康と薬の祭典2018 With 薬剤師」。ステージイベントが会場を盛り上げ、多くの買い物客らが健康チェックなどを行いました



商店街での「祭典」盛況



高松市

太田南コミュニティセンターでの「健康相談・講演会」。地区のお年寄りたちが地元の薬剤師から薬の効果や飲み方などを聴きました。

地域の課題探る

東かがわ市
・さぬき市



東かがわ市交流プラザでの「健康フェア」。地域のお年寄りたちが「ロコモティブシンドローム」の予防法などを学びました

簡身体操でロコモ予防

大川薬剤師会は1月21日に東かがわ市交流プラザ、同28日にさぬき市青少年交流プラザでそれぞれ初めての「健康フェア」を開きました。市や大学、製薬メーカーなどと連携し、残薬や介護相談、血液や体組成測定など多岐にわたるブースを開設。来場者に健康状態を知ってもらい、改善へのアドバイスを行いました。高松市が多かった東かがわ市では、日本健康運動指導士会県支部の片山昭彦支部長（四国学院大社会学部教授）が、加齢や運動不足で骨や筋肉などが衰える「ロコモティブシンドローム」の予防法などを伝授。自宅で簡単にできる体操などを紹介しました。さぬき市会場は参加者の年齢層が幅広く、子どもを対象とした薬剤師体験をはじめ、



さぬき市青少年交流プラザでの「健康フェア」。地域の人が薬剤師から薬や生活習慣病を予防する料理などのアドバイスを受けました

薬剤師の仕事「面白い」

丸亀市薬剤師会は毎年秋に同市内の各コミュニティで催される恒例行事とコラボレーションしました。手始めに昨年10月29日、城坤小学校で開かれた「ふれあい城坤秋まつり」に主催団体の一つとして参加。他のイベントとの相乗効果もあって、小学生と若い両親を中心に約800人でにぎわいました。イベントは市や市医師会、市歯科医師会、大学、製薬メーカーなどと連携。参加者の興味を引きやすい笑いヨガをはじめ、子どもたちに人気だったのは、薬剤師の仕事を疑似体験する「子ども薬局」。白衣に身を包んだ児童は、ラムネ菓子やコンペイトーを錠剤に見立て、本物の自動分包機で小さく袋詰めする作業を楽しみました。

2018年3月発行

健康かわら版 vol.2

発行 ● 一般社団法人 香川県薬剤師会
〒760-0006 香川県高松市亀岡町9番20号
TEL.087-831-3093 FAX.087-831-0070

お薬相談
110番

香川県薬剤師会調剤薬局内
TEL.087-811-0205
info@kagayaku.jp